

Ann Burton NISV Archives Vol.1

21世紀に甦る幻の音源!



ジャズ批評
ジャズオーディオ
ディスク大賞2010
ロスト&ファウンド賞

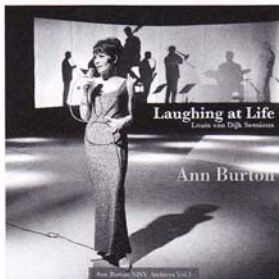
アン・バートン

ラフィン・アット・ライヴ
with ルイス・ヴァン・ダイク

オランダの国民的シンガー、
アン・バートンの知られざる貴重な記録が
死後20年を経て遂にそのベールを脱いだ!
彼女が愛した日本のファンへ贈る最高のプレゼント。

優しく温かみのある歌声で多くのヴォーカル・ファンを魅了したアン・バートンが生前母国に残した、これまで全く未発表だった素晴らしいパフォーマンスの数々を世界に先駆けて日本でリリース! オランダ・サウンド・アンド・ヴィジョン協会 (Netherlands Institute for Sound and Vision) の膨大な資料保存庫からビクター・コロレオナルによって発掘されたこれらの録音は1966年から1968年にかけての放送音源延べ43曲に及ぶ。その第一弾として代表作「ブルー・バートン」や「バラード&バートン」でお馴染みのアン・バートンと緑のピアニスト、ルイス・ヴァン・ダイクとの共演セッションをまとめたバートン・ファンのみならず全てのヴォーカル・ファン必聴の一枚。

今回のアルバム化では、オランダで出版されたアン・バートンの伝記本「BLUE BURTON」の著者、アネケ・ミュラーや「The Complete Billie Holiday On Columbia」を手がけたエンジニア、ハリー・コスターらの惜しめない協力も忘れてはならない。



Ann Burton NISV Archives Vol.1
アン・バートン
ラフィング・アット・ライフ
 with ルイス・ヴァン・ダイク

MZCF-1230 ¥2,500 2010.11.10 release

- アン・バートン [vo]
 - ルイス・ヴァン・ダイク [p]
 - ジャック・スコールス [b 1,3,4]
 - ジョン・エンゲルス [dr 1,3,4]
- ◎録音:1970年、76年、84年



- 1 アイ・ゲット・ア・キック・アウト・オブ・ユー
- 2 ユー・アンド・ミー
- 3 恋はいじわる
- 4 プア・バタフライ
- 5 宵のひととき
- 6 イット・ネヴァー・エンタード・マイ・マインド
- 7 スウィート・ウィリアム
- 8 スーナー・オア・レイター
- 9 ユー・ファシネイト・ミー・ソー
- 10 サムシング・クール
- 11 ラフィング・アット・ライフ
- 12 恋に恋して
- 13 雨の日と月曜日は

◎ アン・バートンの世界初リリース音源

アン・バートンが亡くなったのは、1989年11月29日だった。それから何年かたった90年代初めのある日、私のところへオランダから突然電話が入った。女性の声で「アン」という。一瞬混乱したが、話を聴くと、アネケ・ミュラーというオランダの学校の先生で「アン・バートンの歌にすっかり惚れ込んでしまい、彼女のことを調べて伝記を書こうと思っている」という事だった。彼女がアン・バートンの甥に彼女の遺品を見せてもらった中に私が彼女に書いた手紙のファイルが見つかり、電話番号もわかったので国際電話をかけてきたのだった。「出来るだけお力になりますよ」という話をしたが、その後、ぶつとりと連絡が途切れてしまった。それから2年程して久しぶりに又、電話があった。私的な問題があつて伸び伸びになってしまったけど、作業を始めているということだった。そして、彼女の本『Blue Burton』は、1999年に出版にこぎつけ、アン・バートンの10年目の命日に近い11月26日にアムステルダムのアメリカーナ・ホテルでルイス・ヴァン・ダイクをはじめアンと関係の深かったミュージシャンや業界の人達を集めて出版記念パーティが行われた。筆者も招かれたが、彼女と数年前に一緒にツアーをしたマーク・マーフィーは、出席して即席の「Ann Burton Blues」を歌った。

アン・バートンの残した録音は、あまり多くないけど、未発表録音が見つかるの良いね。ということとその席で話したが、その後、「ブルー・バートン」の未発表曲が2曲出たり、Black Jack Jazzレーベルから、今回のCDのライナーを書いているスキップ・フォードとエリック・ヴァン・ドールメの制作で古い放送録音からの「Ann Burton & Mark Murphy ~ That's All」、「Fly Me To The Moon」の2枚が発表されたり、日本の高知でのライブ「宵のひととき」が出たりしている。今回のアルバムは、ヒルヴァースムにある「Beeld en Geluid (Image & Sound)」に勤めていたジャズ・マニアでアン・バートンの大ファン、ビエト・トゥレナーが膨大な資料の中からこれまで表記ミスなどで見つけ難かったアン・バートンの未発表テープをなんとCD3枚分も探りあて、紆余曲折の後、アネケ・ミュラーの助けもかりてやっと商品化出来たものだ。これだけの量の貴重な録音を日本先行で聴けるというのは、アン・バートン・ファンにとっては福音だろう。本国オランダでの発売の予定はまだ立っていない。

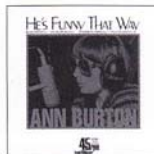


左から高田敬三氏、アン、野口伊織氏 (1973年3月・銀座にて)

2010年10月 高田敬三

MUZAK Ann Burton Collection

ヒーズ・ファニー・ザット・ウェイ



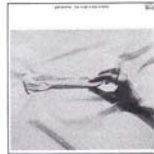
MZCF-1187 ¥2,600
 ヴォーカル・ファンを魅了したその歌声がダイレクトに伝わるコンプリート・ロブスター・レコーディング
 HQ

雨の日と月曜日は



MZCF-1209 ¥2,600
 カーペンターズ、イーグルス、ポール・サイモンなどボビュラー・ソングをカヴァーした隠れ名盤
 HQ

ニューヨークの想い



MZCF-1210 ¥2,600
 “ニューヨークため息”ヘレン・メリルのプロデュースによるコンテンツボラリー・テイストのマスター・ピース
 HQ

◎ 『ラフィング・アット・ライフ』によせて

アン・バートンといえば、CBS盤『ブルー・バートン』そして『バラード&バートン』で知られるオランダの名歌手。そのバートンの未発表音源が発掘されて、しかもバックのピアノが上の2枚でも共演しているルイス・ヴァン・ダイクというのだから2度驚いた。

ある人から、オランダ本国ではリタ・ライスやフリーチャ・カウフェルトの方が人気がある……というような話を聞いたことがあるけど、日本(少なくとも僕のまわり)ではアン・バートンの人気は絶大だ。声量がある訳でもないし、大げさな歌い方をする訳でもない。だけど、じっくり語りかけられるような歌がいつのまにか、心に染みわたっているのだ。日本で愛される歌手アン・バートン。日本でジャズを聴いていてよかった。

で、この『ラフィング・アット・ライフ』はいきなりアップテンポの「アイ・ゲット・ア・キック・アウト・オブ・ユー」で始まる。彼女の持ち味はミディアム〜スローな曲で最大に発揮されると思っていたんだけど、これがスイングしててしびれるのだ。バックのヴァン・ダイク・トリオも、超がつく程キレイよく飛ばす。こんなに音数多くても歌手の邪魔はしない、歌とピアノの追い駆けっこだ。①③④以外はヴァン・ダイクとのデュオ。じっくり歌われる⑥「イット・ネヴァー・エンタード・マイ・マインド」(ここでのピアノも絶品だ)。そしてオランダ語でのMCもいい雰囲気⑩「サムシング・クール」。最後は彼女が好きな「雨の日と月曜日は」でしっとり終わるのも余韻を残す。

ところで、僕は2006年の横浜ジャズ・プロムナードでルイス・ヴァン・ダイクが来日した際に、その楽屋を訪ねたことがある。たどたどしい英語で挨拶して、アン・バートンとの共演について訊いたら、本当に素敵な歌手だったし、彼女と演奏できたのは特別な経験だったと目を見て答えてくれたのを覚えている。それがはつきりと解るのが、この『ラフィング・アット・ライフ』なのですね。

神尾孝弥 (銀座山手楽本器店 3F ジャズフロア)

Coming Soon!



母国に残した奇蹟の未発表音源CD
 第2弾来春発売!

Ann Burton NISV Archives Vol.2

仕様が変更となりました。1980 (CD)

- 1980 : 2011. 2. 10 release
- Rarities : 2011. 6. 24 release

世界初リリース!

Distributed by Ratspack Records



MUZAK, INC.